

大山詣り

神奈川県西部、丹沢山地東麓のおおやま(標高1,252m)の信仰登山と歴史散策を楽しむ大山詣りが近年人気だ。東京都心から約50キロと近く、大山地域の観光客は地元伊勢原市の最新データで一昨年99万人。毎年1～3万人の増加傾向だ。開山は古く奈良・東大寺創建に尽力した良弁僧正が大山寺を中腹に建立し、山頂の石尊大権現とともに修験の聖地となった。江戸時代中後期に集団参拝する大山講が広まり江戸の人口100万人のころ年20万人も関東一円から訪れたという。

大山はよく雲や霧がかかり別名を雨降山と呼ばれ、雨乞い、五穀豊穡を願うことから、頂の岩に神々が降りる山岳信仰の大権現はのちに阿夫利神社(上社)となる。古典落語にもある「大山詣り」は、長屋の男衆が揃って出かける行楽半分、信心半分の旅。道中で腹を立てたものは二分の罰金、暴れたら丸坊主という約束を交わしながらのどんでん返し。ご利益は往路だけでは不足だと「大山帰り」も人気を集めた。歌舞伎の清元に出てくる演目「山帰強桔梗」は帰途の男たちを描く。昔の女を思い出しながら山頂から遠望する江の島へ向かう観光気分のストーリーだ。

現代の大山詣りは小田急線新宿から約1時間、伊勢原駅



海拔1,252メートル大山山頂の阿夫利神社奥社

下車、バス25分ほどの終点から独楽職人が営んだ由来の「こま参道」の土産店や食事処が並ぶ362段を登る。大山ケーブルで阿夫利神社(下社)に行き頂上の上社までゆっくり歩いて約2時間。復路は1時間半ほどだが石段の下りは結構きつい。「学び」と「旅」をコラボした小田急主催「まなたび」は大山街道・国道246ルートを赤坂御門から三軒茶屋、二子玉川、厚木、伊勢原を通り山頂まで7日に分け1日6、7キロをほぼ月ごとに歩く。帰りは富士を背に伊勢原―寒川―藤沢―江の島―鎌倉―横浜―川崎大師―品川―日本橋まで、江戸のころと遊び方は異なるが故事旧跡をたどりながらの健康ウォーキングは楽しい。 文・写真 林 莊祐